



ご存知の通り合気道はその昔、武田家秘伝の武芸として門外不出のまま、移り変わる時代の中に生きてきました。この素晴らしい日本の武道を私達が今、体験をし稽古が続けられているのは、誰かがそのキッカケを作ってくれたからに他なりません。

私達養神館合気道は、その発端が武田惣角～植芝盛平～そして塩田剛三先生であることは言うまでもありません。

昔の武道家は苦労して会得した技自体を盗まれるのを恐れ、下半身の動きを見破られないよう袴で蔽い、技の名称も一ヶ条、二ヶ条のようにコードネームで呼び、これだけでは何の技か他に解らぬようにしました。

さて、現代の合気道に接している私達も他ならぬ「広めている人々」のひとりなのだから、正しい考え方をもって、その本質を勉強しなくてはなりません。

その点、今は恵まれており、解説本やビデオテープやCD等があり、稽古できる道場も全国に広がっています。

この動画記録媒体というものがあるので、本部の先生方もたいへんです。

先生の一挙手一投足を、生徒の皆さんたちがコマ送りやスローで見るので、俄かの批評家たちがあまた誕生します。

「体の中心線が少しずれてやしないか？」

「あっ、あんなところで目をつぶっている」てなものです。

話は変わりますが、私は平成11年3月に、あるコンピューター関連の会議に参加するためアメリカ西海岸に行ってきました。

その際、千田師範に連絡を頂き、サンフランシスコで養神館合気道を広めておられる森田先生に会ってきました。

当初アメリカの東海岸で合気道や柔道、レスリングなどを修行し、それをもってこの異国の地で武道を広めようと思ったそうです。

東海岸にはお世話になった先生方もおられるので遠慮し、反対側の西海岸のサンフランシスコに根をおろしたのです。

森田先生はシスコに合気道を普及させる為、毎日毎日、道着にゲタ履きというスタイルでなんと二年間も、街の中をうろついたそうです。

「お前はいったい何者だ」と訊いてでもくれれば、説明をするつもりだったのですが、誰ひとり声を掛けてくれなかったそうです。こんなこといつまで続けていればよいのだ。いつになっても、ひとりとして弟子が入門してこない。

見るに見かねた知り合いの柔道の先生が、自分の弟子を二人ほど回してくれたのが最初のきっかけとなったということです。

今では「非切館」という立派な道場を開き、近くの大学でも指導されています。

ご自宅には全部自分で作り上げたという畳の部屋があり、囲炉裏が切っていました。

Do it yourself とはいえ、見事な出来栄でした。

こういう凄い日本人の存在は頼もしいと思いませんか？